

図書室だより

令和元年10月

港区立青山中学校

校長 中田 和直
図書室 鈴木・森・萩



爽涼な風が吹きぬけ、木々が美しく色づく、今年も秋がやってきました。広辞苑で「秋」を調べてみると、「秋空があきらか（清明）であるところからか」と、その語源の一説が記されています。芸術の秋、スポーツの秋、そして読書の秋。澄みきった青空の下、実り豊かな秋をすごしてください。

サリンジャー生誕 100 周年

J. D. サリンジャー（ジェローム・デイヴィッド・サリンジャー）は、1919年1月、ニューヨークのマンハッタンで生まれました。2019年の今年、生誕100周年にあたります。

決して作品数の多い作家ではありませんが、繊細で奥深く、生き生きとした言葉で描かれる世界には、今を生きる私たちの心にも訴えかけるものがあります。

「ライ麦畑でつかまえて」 野崎孝:訳/白水社/933サ

「キャッチャー・イン・ザ・ライ」 村上春樹:訳/白水社/933サ

青春文学の金字塔と呼ばれる作品。主人公の少年ホールデンと大人社会との衝突が、鮮烈な一人称で語られます。翻訳により変化する印象も味わってみてください。

「フラニーとゾーイー」 野崎孝:訳/新潮社/933サ

エゴだらけの世界に耐えられず、自分のカラに閉じこもってしまう妹のフラニー。兄のゾーイーは、ウィットに富んだ言葉で、何とか妹を救い出そうとします。

読書の秋



秋の時候の挨拶に、「灯火親しむ候」というものがあります。これは、中唐の文人韓愈（かんゆ）の「符読書城南」詩の一節「灯火稍（ようや）く親しむべく、簡編巻舒（かんぺんけんじょ）すべし」が出典です。「秋になると涼しくなり夜も長くなって、灯火の下で読書するのに適している」という内容で、「読書の秋」もここに由来するといわれています。

「読んでわかる俳句 日本の歳時記 秋」

宇多喜代子:著/小学館/911ニ3

には、「灯火親しむ」の他にも、天文・植物・行事など、色とりどりの秋の季語がカラー写真と共に紹介されています。

美しい日本語で、美しい秋を楽しんでみませんか？



☆10月27日（日）～11月9日（土）は、読書週間です☆



「思わず考えちゃう」 ヨシタケシンスケ:著/新潮社/914ヨ

独特の着眼点と発想の妙で大人気の絵本作家、ヨシタケシンスケ氏が思わず考えちゃったこと。「人に、自分に、世の中に、ちょっとだけ優しくできるような気がする」、新感覚スケッチエッセイです。思わず考えちゃったこと、自分も記録してみたくなるかもしれせん。

◆読み終わった本は、元の場所に戻しましょう。

◆次に待っている人のためにも、返却日は守りましょう。

図書室は、みなさんの

「読みたい・知りたい・調べたい」を応援しています。

